

議会報告会報告書

開催日時	平成28年11月2日(水) 19:00~20:30
開催場所	西部ブロック 波田公民館
出席議員	澤田佐久子、村上幸雄、犬飼明美、阿部功祐、吉村幸代、小林あや、青木崇、宮坂郁生、上條俊道、大久保真一、忠地義光、太田更三、今井ゆうすけ、上條温
参加人数	29名
報告に対する質疑	<p>Q: 災害の事前対策について 大雨、地震はいつ起こるかわからない。熊本被災地の避難所に出向いたが、ハード面について事前の準備が必要であることを痛感した。松本市は避難訓練等のソフト面は充実しているが、ハード面で指定避難所にエアコン、暖房、ベッドなどが必要だ。</p> <p>A: エアコン、暖房については御意見として伺います。ベッドについて松本市は、段ボールベッドを用意、備蓄している。</p> <p>Q: 国道158号沿いや入山辺地区など沢浴いが大雨による被害が出ている。事前の対応が必要であり、予算配分には十分な配慮を望みたい。砂防ダムも必要な場所がいっぱいある。税金は市民全員が関係する部分に使ってほしい。</p> <p>A: 要望について市へ伝えていきたい。</p> <p>Q: 事前対策はこれでよいということはない。段ボールベッドではだめで、折りたたみベッドでないと病人に対応できない。</p> <p>A: 総務委員会では「3.11」以降全国的な課題となっている災害時の受援体制についてテーマとして調査研究をしている。市への政策提言を目指している。 (先進地視察や食糧備蓄品、仮設トイレの備蓄などの検討)</p>
その他	なし

松本市議会議長 様

平成28年11月10日

上記のとおり報告します。

報告者 宮坂 郁生

議会報告会報告書（意見交換会）

開催日時	平成28年11月2日（水） 19:40～20:30
開催場所	波田公民館 講堂
出席議員	太田更三、忠地義光、上條 温、村上幸雄、吉村幸代
参加人数	13名
意見交換	<p>小テーマ名（ 防災 ・ 地域と子育て ・ 若者の参加 ）</p> <p>Q：防災について、議員はどの程度の認識をもっているか。信州大学の 大塚教授（地質学）を招いて勉強してはどうか。活断層のない西部 地域に水や食糧のストックヤードを持つべきだそうだ。議員が知識 アップして、議会から市民へと発信してほしい。</p> <p>A：先日、全議員が学習したところである。災害対策は、東日本大震災 を契機に、いずこの自治体も強化している。予算も、力の入れ方も、 20年前とは全く違うと感じる。</p> <p>Q：糸魚川－静岡構造線や牛伏寺断層があるから企業が進出してこない のではないか。経済波及効果に関わってくる。こうした問題を、4 市9町村（広域）にどう投げかけるのか、よく吟味・議論してほし い。</p> <p>A：松本市が策定した『地域防災計画（地震、風水害など）』の冊子を 紹介しようと持参した。ハザードマップも全戸配布されている。</p> <p>Q：市の体制はなっていないと感じる。危機管理部の職員数も少ない。</p> <p>A：問題は、どの程度の予算を投入できるかだと思う。</p> <p>Q：地区の防災訓練（避難所開設訓練）に、地域在住の市職員が参加し ている。避難所開設は市職員の力量にかかっているので、職員の資 質を高めるように訓練してほしい。</p> <p>A：大地震の際は、対策本部が設置される。市長が、その司令塔をつく ると言っている。危機管理部の職員数は確かに多くはないが、市職 員も緊急連絡体制をはじめとして訓練を積んでいる。</p> <p>Q：市職員だけでは無理な部分がある。町会長だけでなく、地元で長期 にわたって対応できる人材を育てるべきではないか。</p> <p>A：熊本地震（震度7）では、電柱が倒れ、消防車も来られない状況だ った。松本市では市職員を居住地域の避難所に振り分けているが、 職員2～3人で避難所運営は無理。地元の方々に協力をお願いする ために訓練をしている。</p> <p>Q：避難所の環境整備・事前準備が整っていれば、市職員がいなくても 対応できると思う。段ボールベッドは使い物にならない。クーラー や扇風機、暖房機も必要だ。</p>

	<p>A : 有事の際は停電が想定されるので、クーラーは使用できないだろう。発電機は配備されているが、クーラーまでは無理だと思う。</p> <p>Q : 避難所開設・運営マニュアルを作成中だが、進行せず。危機感が足りないのではないか。スピード感が必要だ。</p> <p>A : 議会においても、防災関係の質問が多い。ただし、発災から3日間は「自助」が求められる。</p> <p>Q : 発災後に、議員はどういった動きをするのか。</p> <p>A : 余計な口出しをせずに、きちんと行動することになっている。被害状況の報告にしても、地域づくりセンター長から対策本部へ報告することとなっており、情報が混乱しないようにすることが重要。</p> <p>Q : 防災関係の予算確保に力を入れてほしい。</p> <p>A : 以前、奈川地区が3日間孤立する事態に陥った折に、町会長の命令で動いて事なきを得た。早目の判断と早目の避難が大切であり、自助は最初に求められる行動といえよう。</p> <p>Q : 避難所の備品・機材などの取扱方法を、住民にも教えておいてほしい。機材を揃えておきさえすれば良いわけではない。避難所や倉庫には鍵もかかっているわけだから、鍵の問題も含めて、具体的なことを町会に伝えておいてほしい。要援護者など、2階に行けない人の避難について考える必要もある。援助物資の仕分けも課題と思われるが、もっと民間の力を活用すべきではないか。民間の輸送会社との協定には危うさを感じる。</p> <p>A : 同感である。避難所の設営段階から訓練すべきだ。</p> <p>A : 議会の一般質問でも取り上げた。援助物資を狙う泥棒も多いらしいが、仕分けがはかどらないと、すぐに貯まってしまつて大変だ。</p> <p>Q : 熊本地震の被災地を視察した危機管理部長が、「物資の仕分け作業にはフォークリフトが必要」と語るのを聞いた。地についての取り組みが求められている。</p> <p>A : 防災機材については盗難という問題もあって、倉庫等に鍵が必要。</p> <p>A : 段ボールベッドを実際に使ってみなければと思う。暑さ対策は扇風機が良かろう。防災体制や取り組みについて、議会だよりで特集を組むなどして伝えていきたい。道路や河川に関する対策も重要だ。</p>
その他	なし

松本市議会議長 様

平成28年11月9日

上記のとおり報告します。

報告者 吉村 幸代

議会報告会報告書（意見交換会）

開催日時	平成28年11月2日（水） 19:40～20:30
開催場所	西部ブロック 波田公民館
出席議員	阿部功祐、上條俊道、犬飼明美、宮坂郁生
参加人数	9名
意見交換	<p>小テーマ名（ 防災 ・ 地域と子育て ・ 若者の参加 ）</p> <p>意見、要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サル被害に対する対策について旧波田町時代にはロケット花火の提供があったが、合併後予算がないとのことで対応ができていない。捕獲檻も奈川地区へ移動された。サル檻の設置を要望したい。 ・農地の線引後、荒廃農地が増加している。また、宅地化も進んでいるので、地域要望として是非見直しをしてほしい。 ・消火栓ホースの破損は地元で交換の対応とのことだが、市で予算化し対応すべきだ。 ・保育園について第2子が生まれたときに第1子が退園させられてしまうことに困っている母親が多い。改善を要望したい。 ・児童センター、放課後児童クラブの一本化が検討されているが、波田地区は人数が多いので、他の地区に合わせて1つにする必要はないのでは。施設改修（増築）して対応を要望。児童センターは人口、面積に応じて設置すべきだ。合併後の対応が悪い。 ・博物館について、貴重な蝶の標本を管理する場所を作ってほしい。（現在、名古屋の大学へ保管を依頼している。） ・支所機能の低下（職員数の減）により、住民サービスに影響している。合併の害だ。 ・松本市は人口増と報道されているが、市民の声として子育て環境が悪いと言われている。 ・市立病院について現在、有識者や住民代表で作る検討組織が発足したようだが、どのようになっているのか情報が欲しい。病院名称を市立病院でなく知名度のある波田病院とすべきだ。なんで波田が消えたのか。
その他	なし

松本市議会議長 様

上記のとおり報告します。

平成28年11月10日

報告者 宮坂 郁生

議会報告会報告書（意見交換会）

開催日時	平成28年11月2日（水） 19:40～20:30
開催場所	波田公民館 講堂
出席議員	今井ゆうすけ、青木崇、小林あや、大久保真一、澤田佐久子
参加人数	7名
意見交換	<p>小テーマ名（ 防災 ・ 地域と子育て ・ 若者の参加 ）</p> <p>○参加者の多くが町会長さんだったため、主に町会への若者の参加について意見交換が行われました。</p> <p>進行：地域への若者の参加について30代前後の年代の若者を対象とする。まず、若者の観点で、地域とどのように関わってきたのか。</p> <p>議員：今まで、政治に興味が無かった。今まで、町会と関わる機会がなかった。町会になじむことが大切。松本市ではインターンシップが配置されていてこれからどうなるのか、見ていきたい。</p> <p>議員：自分がやっていることとして、若者の政治離れの中で、意見を聞いて、市政に反映している。つながりを持つことが、大切</p> <p>議員：20歳の頃から地域に関わって、PTA、青年団、消防などやってきた。今は、苦勞をして、人集めをしている。ママさんグループを独自につくっている。若い人は、子育てや仕事で過重労働になっているので、国の政治になってくるが、下から支えなくてはいけない。参加してもらうことが大切。</p> <p>進行：上記の議員側の意見をふまえて自由討論。</p> <p>参加者：空き家に引っ越して来た小さい子供さんがいる家族で、最初は、借家でちょっといるだけという意識で住んでいたが、地域全体で、めんどろをみているうちに、ここに住んでいたいと思うようになり、現在は隣組長をやっている。行事に出てくるようになった。全体でかかえてゆくことが大切。地域になじめば夢中になれる。まわりがどういう風に関わるかが一つのきっかけになる。</p> <p>参加者：若者が自ら消防団員集めをしている。お祭りで、地域の関係をもつ、氏子の子どもさんは、強制的に。PTAの清掃や三九郎、スポーツ活動で、区の対抗、人集めをして試合に出ようと誘っている。公民館のバス旅行では若者の参加が多かった。興味を示すことを考えれば集まる。つながり、なじみをつくる。</p> <p>参加者： 若者の政治参加について、議会政治への参加の関心が薄い中には、議員や政治家と接点が無い。プラットフォームをつくったらどうか？町会の主体も高齢化している。受け入れる体制を作らなければ育</p>

ってこない。若い人が何を考えているのか。若い人を育てていく役割がある。しくみ作りが大切。(私の住んでいる) 町会の未加入率が高い。

参加者：30歳前後の若者が、比較的行事に参加している。お祭りの主役になって、演劇・舞・古典芸能をしている。活躍する場がある。元気な人は、消防もやっている。町会に関わっている人とそうでない人と2つに分かれているが関わっていない人も関心はある。

進行：地域のまちづくりもそれぞれ違うかもしれない。松本市がやるべきことは何か。

参加者：若者をどうやって引っ張り出すかが課題。若者との接点、どうやって歩み寄るか？

大人の政治意識が下がっている。だから子どもの政治意識も低い。海外に比べて、家族もばらばらで、学校でも議論の場がない。18歳から選挙権があるが、政治意識をもってほしい。高校へ勤めているので、接点はあるが、大人から歩み寄ることが大切。

参加者：11月6日に防災訓練をやる大人だけの参加ではなく子どもも参加してゆく。若い人が参加する大会へ、自分たちから参加する。

参加者：地域には若者がなかなかいない。どういう形で連携をとっていくのか、酒飲み仲間と接点をみいだしていく。地道にとりくんでいくことが大切。

参加者：地域で若者を見たことがない。どういう形で連携とるのか？小学校の夏休み帳のお手伝いをして、親との接点をもった。

まとめ

進行：大人が若者のコミュニティに入っていくことが必要。

キーワードは「いかに地域となじめるか」、これに対して「仕掛けづくり」を考える必要がある。

まず誘うこと。誘い続けること。子育て・仕事で忙しくてもお祭りなど、関わりをもつこと。各地域ごと特性が違うので、参加者も議員も持ち帰って参考にされたい。

松本市議会議長 様

平成28年11月11日

上記のとおり報告します。

報告者 澤田 佐久子